



少しオーバーに聞こえるかも知れませんが、心理学も生理学も勉強しなかった昔の人たちが、自分の子どもを生み、育てた体験から出たことばです。

それが今、いろいろな分野で学問的に立証されてきています。



先日テレビで、おもしろい実験をしていました。

生後 3 ヶ月の赤ちゃんに、お母さんがいろいろな表情をしてみせ、赤ちゃんの心の変化をみようとする実験です。

お母さんが、にこやかなやさしい顔をしていると、赤ちゃんの心拍数が安定。お母さんが不機嫌な顔をしたり、怖い顔をする、と、赤ちゃんの心拍数が高くなり、次第に不安定な状態になっていくのです。

何気なく過ごしている毎日の生活の中で、笑うことが多い家と、イライラおこりっぽい家とでは、脳が発達しつつある乳幼児期に大きな違いが出てくるのも当然かもしれません。

専門家の話をごく簡単にいうと、よく笑い毎日の生活が楽しいと、脳の中に(快)の回路がどんどん太くなっていくのだそうです。逆にけんかが多かったり、淋しい暗い雰囲気の中にいると(悲)の回路がどんどん太くなるのです。そして次第に、使われなかった回路はだんだん消去されてしまうのだそうです。

3 歳頃になると、誰にでもにこやかに話しかける子がいたり、非常に緊張して人前に出られない子が出てきますが、これは家庭の雰囲気 人間関係が大きいようです。3 歳頃までにたくさんの人たちに囲まれ、なごやかな楽しい雰囲気を作ってあげることが、その後の生き方につながっていく いわゆる「三つ子の魂 百まで」ということなのでしょう。



赤ちゃんはよく汗をかきます。

これも とても大切なことで、汗をかくことによって体内の熱を外に出し、体温の調節をしているのです。ところが今はエアコンがあって、いつも快適な温度の中で過ごすことが多くなりました。でもこれは乳幼児期の子どもにとっては、とても迷惑なことのようにです。何故なら、この時期汗をかかないと、本来もっている汗腺が次第に機能しなくなるのだそうです。

脳の神経回路と同様、やはり3歳までにしっかり汗腺を開通させておかないと、汗をかかない体質になり、体内にためこんだ熱を排出できず、熱中症になり易いということです。

このように、いろいろなことがわかってくると「三つ子の魂」は、これからの長い人生に大きな影響力をもっているということがわかります。

みなさんのお子さんは、今まさにこの時期を生きているのです。



世界の子どもと比較して
日本の子どもを どう思いますか？

まず、出生児の減少があげられます。これは1960年頃から急に減少し、年毎に低下しています。親世代の人数が少なくなっている上に出生児が少ないので、この先どうなっていくのかとても気になります。

これにはいろいろな理由があるでしょうが、全体的にみて、子育てより自分のやりたいことを優先したいと思うおとなが多くなっている・・・このことが大きいように思われます。

それに加えて、病気で死亡する子どもが非常に少ない・・・これも他の国と比較しても、昔の日本の子どもと比較しても、大きく差をつけています。このこと事態はたいへんうれしいことですが、「一人か二人いれば・・・」という安心感が少子化に影響しているかもしれませんね。

2 番目には、豊かな生活環境があげられます。不況とはいっても外国からみたら、また昔の日本の生活からみたら、平和で、暖かくて、おなかいっぱい食べられて、貧しい国の人々からみたら夢のような生活です。だから少ない子どもにお金をたくさんかけて育てているのです。



昔、戦国時代に藩を滅亡させようと思ったら、後継者を「バカ殿」に育てれば簡単につぶせるといったことを聞いたことがあるのですが、その「バカ殿にする方法」というのが非常に強く印象に残っています。

それは「寒い時は暖かくし、暑い時は涼しくし、好きなものをたくさん食べさせる。幼児期からこのように育てておけば、必ずわがままで弱いバカ殿に育ち、簡単に滅亡させることができる。」というのです。大体、藩主や城主の子弟は、乳母など他人の手によって育てられていました。

今、日本の子育て環境を考えた時、ドキッとすることばだと思いませんか？

少ない子どもに大きな期待をかける。 高学歴への期待も、世界に類をみない日本の子どもの現状です。

子ども自身の向学心から勉強するのなら、多少の困難に出会ってもゆるがず精進するでしょうが、まだよくわからない受身の子どもに早期教育を受けさせても、意味がないばかりか、将来勉強嫌いにもなりかねません。

更に問題なのは、家庭の空気が大きく変わったことです。

三世代、四世代といった異世代が同居または近くに住んでいた頃は、人間の生き死ににも立ち合い、子育てのノウハウも見たり手伝ったりして憶えていきました。訪ねて来る人の年令もさまざまで、いろいろな考え方や接し方も学ぶことができました。

「核家族」から今は「孤族」ということばも出てきています。日中などだれもいない家が多いようです。子どもたちも長時間保育に預けられ、食事も外食勝ち。来客もなく、用件があればメールで・・・と、会話もどんどんなくなってきました。

ことばを全然話さなくても買物もできるし、一日を過ごせます。

ことばを憶え、コミュニケーションのしかたを獲得しつつある幼児からみると、今の日本の状況はどうなのでしょう。かけがえのないかわいい子どもだからこそ、真剣に考え合いたい所です。



「三つ子の魂」
今一番大切にしたいこと



心理学者の詫摩武俊先生は「三つ子の魂」という著書の中で、特に留意してほしいこととして次の5項目をあげておられます。

自分の成長を楽しみに思えるように。

「楽しいことがいっぱい」「早く大きくなりたい」すなわち自分の未来は明るくかがやいていると、子ども自身が思うことです。（今、もしかすると「大変そうだから大人になりたくない」と思っている子が多いかもしれませんよ）

自信をもつように。

「よくできたね」「やったね」ほめたり、認めたり、はげましたりする。これは「また新しいことに挑戦してみよう」という意欲を育てます。

ことばのやりとりを楽しめるように。

3歳で習得したもので、成人しても続いていくのがことばです。母国語の習得、この時期の言語環境はその後のその人の話し方に大きく影響していきます。

知的好奇心を活発に。

視覚も聴覚もフル回転。「不思議」「どうして？」ていねいに相手をすることで、積極的・意欲的な子どもが育ちます。

愛されている実感がもてるように。

「信じられる」「安心して抱いてくれる人がいる」この実感がないと心は育ちません。